

## 秋はシカの恋の季節

春4月ごろ、ニホンジカのオスは角が抜け落ちます。そして5月から6月にかけて新しい角が生え始める時は、袋角と呼ばれ、先端が丸く皮膚を被っています。その袋を破って皆さんが知っているシカの角が現れます。8月になると、これからの戦いに備えて立ち木に角を擦りつけて、角の先端を研ぎます。この時、立ち木の樹皮が傷つけられて皮がむけたり、その下の木部にも彫刻刀で削ったような傷がつきます。これがシカの「角研ぎ」といわれる行動で、シカが及ぼす林業被害の一つです。8月も中旬が過ぎると、それぞれのオスが自分のテリトリー（なわばり）を獲得するため、戦いの準備である角研ぎが目に見えて増えてきます。繁殖のシーズンが近づいていることの証です。

基本的にシカは群れで仲良く暮らしています。冬は越冬できる場所で、オスの群れもメスの群れも一緒に行動して、餌の乏しい冬を乗り切ります。春から夏にかけてオスとメスはそれぞれの群れに分かれて暮らします。この時のメスは、出産を控えていたり、子育て中となります。そして、秋になるとこのオスの群れがバラバラになり、オス同士が角を突き合わせてけんかをし、他のオスを追い払います。一般的に強いオスが大きなテリトリーを獲得し、メスの群れを自分のテリトリーに囲い込んで「一夫多妻」型の繁殖を行います。

10月になると、自分のテリトリーを獲得したオスは、ピー、ピー



と甲高い声でテリトリーの宣言をします。もちろん、この時、自分のテリトリーに他のオスが侵入してくれば、角を突き合わせて他のオスを追い払います。時には、自分が負けてその場所から追い出されるオスもいるそうです。この季節、夕暮れも早く午後6時を過ぎると真っ暗になります。シカは一般的に夜行性のため、この時間帯から山の中でピーという鳴き声が聞こえることがあります。この声が自分のテリトリーを獲得した喜びの雄叫びか、そのテリトリーを奪う戦いを挑む別のオスの雄叫びか、想像してみるのも面白いです。

繁殖期が終わる12月には、それぞれのオスやメスの群れが一つになります。先月まで争っていたオス同士も並んでアオキの葉を食べたりして、仲良く越冬地で暮らします。そこにはとても平和な姿が見られます。

(杉野)